

# 日医ニュース

2021. 1. 20 No. 1425

日本医師会  
Japan Medical Association  
〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16  
電話 03-3946-2121(代)  
FAX 03-3946-6295  
E-mail www.info@po.med.or.jp  
https://www.med.or.jp/  
毎月2回 5日・20日発行 定価 2,400円/年(郵税共)



トピックス

- 定例記者会見 ..... 4面
- 第9回「日本医師会赤ひげ大賞」受賞者を決定 ..... 5面
- 勤務医のページ ..... 8面

## 新春対談 中川会長・高橋尚子(公財)日本オリンピック委員会理事

# 全員が勝者になれるマラソン スポーツの魅力を知って生活に取り入れて欲しい

**中川** 今回はお忙しい中、対談を快くお引き受け下さり、ありがとうございます。会長に就任してから初の新春対談ということで、ぜひ、高橋さんと対談できればと思っています。

**高橋** そうなんです。今日はお久しぶりですね。中川先生は学生時代にはサッカーをやっていたんですが、医師になってからはマラソンが好きです。

**中川** 今度お忙しい中、対談を快くお引き受け下さり、ありがとうございます。会長に就任してから初の新春対談ということで、ぜひ、高橋さんと対談できればと思っています。

**高橋** 62歳の時は1年間6回フルマラソンに出場した際に、コースの途中で高橋さんにハイタッチしてもらったことを今でも覚えています。

**中川** 一度も歩いてしまおうと、絶対「サブフォア」はできないです。初めて「サブフォア」ができたのが「つくばマラソン」だったんですが、その前半と後半をほとんど同じタイムで走ることができました。

**高橋** それは理想的です。トップ選手に関しては、本来、後半が上り、前半は下り、最初から徐々に落ちていくという方が多いので、後半にタイムが落ちない走りができるのは、やはり力がある証拠だと思います。

**中川** 42・105キロの中に、走者それぞれドラマがあるんですね。高橋さんが出場した1998年のバンコクのアジア大会での走りはすごかったですね。

**高橋** そんな前のことでもご存じなんですね。中川 あのレースは、気温が30度以上あったのではないですか。



中川俊男会長となつて初めての新春対談には高橋尚子公益財団法人日本オリンピック委員会理事をお迎えし、マラソンの魅力を語ってもらうとともに、金メダルを獲得した2000年のシドニーオリンピックなどについて、振り返って話をしてもらった(昨年11月27日、日本医師会館で感染防止対策をした上で実施。写真撮影時のみ、マスクを外した)。

**中川** 高橋さんにお聞きしたいのですが、マラソンの魅力とはどんなところにあると思いますか？

**高橋** マラソンというのは、42キロの間に苦しんだり、楽になったりが繰り返されるもので、トップ選手でも、最初から最後まで楽に簡単に走れるということはないと思います。

**中川** 私はマラソンを見るのが好きで、多くのレースを見ています。高橋さんが出場した1998年のバンコクのアジア大会での走りはすごかったですね。

**高橋** そんな前のことでもご存じなんですね。中川 あのレースは、気温が30度以上あったのではないですか。

**高橋** マラソンは本来だったら気温10度前後というのが理想で、25度は暑いですが、ただ、選手は暑いと言われていて、調整能力もその人の実力のうちだと思つて、準備をしてくれるのはなかなかいいと思います。それと、選手を支える周りのスタッフの力も大きいと思います。2019年に世界陸上が行われたドーハも暑かったんですが、競歩であれだけ日本人が活躍できたのは、科学班やサポートをする





「かかっけ医」をもってもら

「かかっけ医」の存在はますます重要になっていきますし、日本医師会でもできるだけ多くの人に「かかっけ医」をもってもら

# 「令和3年度税制改正大綱」 （自由民主党・公明党）が決定 事業税非課税の存続などが実現

宮川政昭常任理事は昨年12月22日に開催された令和2年度第27回常任理事会で、日本医師会が昨年9月に「令和3年度医療に関する税制要望」として取りまとめた15項目のうち、与党が同年12月10日に決定した「令和3年度税制改正大綱（自由民主党・公明党）」に盛り込まれた項目等について報告を行った。

日本医師会では、要望事項の実現に向けて、厚生労働省を始め関係各方向に働き掛けを行うとともに、与党税制調査会での検討に向けて、要望活動を継続的に行ってきた。

その結果の概要は、次のとおりである。

(1) 制度の存続として、「社会保険診療報酬に係る事業税非課税、医療法人の自由診療等部分に係る事業税の軽減税率」及び「社会保険診療報酬の所得計算の特例措置（いわゆる四段階階級制）」が認められた。

(2) 期限の到来する制度の延長等として、「医療機関の設備投資に係る特別償却制度」の2年延長・見直し、「中小企業特別償却制度」の2年延長・見直し、「中小企業経営強化税制」の2年延長・見直し、「中小企業投資促進税制」の2年延長・見直し、「中小企業乗用自動車で一定のもの」が追加されることになった。

(3) 制度の拡充として、「個人版事業承継税制の対象資産の拡充」が認められた他、対象資産の創設（所得税）「地域医療構想実現に向けた」

(4) 関連項目として、「基金拠出型医療法人における負担軽減措置の創設」は、日本医師会が強く要望した項目であり、持分あり医療法人から持分のない基金拠出型医療法人に移行する際の「みなし配当所得課税」の繰り延べと、基金に係る相続税・贈与税の猶予を求めるものであったが、このうち、「みなし配当所得課税」については引き続き検討されることとなった。

## 医師資格証を 持ちましょう

医師資格証（HPKIカード）は、医師採用時、医師免許証の代わりとすることができる（詳しくは、日医電子認証センターホームページの2017年12月22日付News欄をご覧ください）など、さまざまなメリットがあります。ぜひ、この機会に医師資格証の作成をご検討願います。

日本医師会 電子認証センター

日本医師会 電子認証センター

# 日医 定例記者会見

1月6日

## 新型コロナウイルス感染症に関する最近の動向について



ウイルス感染症に関する最近の動向を踏まえ、以下の7点について日本医師会の考えを説明した。

### (1) 緊急事態宣言

1月4日に菅義偉内閣総理大臣が記者会見で、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県を対象に緊急事態宣言を発令する方針を表明したことについて、その決断は医療提供体制の逼迫に瀕している医療にとつて非常に大きな意義があるとして、高く評価した。

また、今年に入り菅総理に対し、緊急的なコロナ病床の更なる確保は容易ではなく、感染者数の減少を図ることを最優先すべきであることを強く進言したと明かし、その進言が理解されたとの見方を示した。

更に、今回の緊急事態宣言が1都3県に限定したものであること、今後の感染拡大の状況によっては全国的な発令も考えなければならぬ可能性があるとする点も、昨年4

### お知らせ

昨年12月23日に開催した定例記者会見に関しましては日本医師会ホームページの日医 on-line にある「日医君だより」に掲載しておりますので、ご覧下さい。

日本医師会広報課

重点を置くよう国に求めるとともに、啓発のための方策として、緊急事態宣言下における全国会議の夜の会食を、人数にかかわらず、全面自粛することを提案。「国会議員に範を示して頂きたい。まずは隗より始めよ」ということだ」と述べ、そのような行動が、必ず国民の一部に生じた緩みの解消につながることを、政府に対して、今回の宣言で経営危機が深刻化することが危惧される飲食店等への配慮も強く求めた。

国民の一部で、まだ医療崩壊の危機ではないのではないか」という声が少なからずあることに對しては、そのような声に多くの医療従事者が傷ついているとした他、「全ての医療機関で同ウイルス感染症を診るべきではないか」という指摘についても、「現在の医療提供体制は、同ウイルス感染症患者の医療とそれ以外の通常の医療が両立しているからこそ機能している」と強調。その両立が困難になるのが医療崩壊であるとした上で、同ウイルス感染症の患者が増加するほど通常の診療が圧迫されることを説明した。

また、全ての医療機関重点を置くよう国に求めるとともに、啓発のための方策として、緊急事態宣言下における全国会議の夜の会食を、人数にかかわらず、全面自粛することを提案。「国会議員に範を示して頂きたい。まずは隗より始めよ」ということだ」と述べ、そのような行動が、必ず国民の一部に生じた緩みの解消につながることを、政府に対して、今回の宣言で経営危機が深刻化することが危惧される飲食店等への配慮も強く求めた。

日本医師会が年末に地域の状況把握のための緊急調査を行った結果、年末年始も都道府県行政、保健所、医師会が一体となって体制整備の対応や、宿泊療養施設に医師会員を派遣するなどの取り組みが続けられたことを報告。

その一方で、体制は依然として不十分との声もあり、特に保健所は手一杯となっていることから、日本医師会として今回把握した現状を国と共有し、きめ細かく、手厚い支援を要請していく意向を示した。

学校の休校に関して、児童・生徒間の感染拡大は限定的であるとのデータが示されていることを踏まえ、「子どもの孤立を防ぎ、保護者の負担を軽減する意味でも、緊急事態宣言下において一斉休校とする必要はない」と指摘。昨年3月の臨時休校の際には保育園、幼稚園が休みとなったことで、医療従事者が

一時休職したりするなど問題が起きたことにも触れ、負担が高まっている保育園、幼稚園の職員に対して国として対応した上で、子どもの受け入れの継続を要請した。

中川会長は最後に、改めて同ウイルス感染症が普通の風邪ではないこと等を強調。「同ウイルス感染症に慣れてしまったら、いつまでも長引く。新年を迎え、ここで仕切り直して再び連帯感を取り戻し、危機感と緊張感をもって頑張っていきたい」と述べ、国民への協力を呼び掛けた。

### (2) 医療崩壊の危機などないのではないかと

国民の一部で、まだ医療崩壊の危機ではないのではないか」という声が少なからずあることに對しては、そのような声に多くの医療従事者が傷ついているとした他、「全ての医療機関で同ウイルス感染症を診るべきではないか」という指摘についても、「現在の医療提供体制は、同ウイルス感染症患者の医療とそれ以外の通常の医療が両立しているからこそ機能している」と強調。その両立が困難になるのが医療崩壊であるとした上で、同ウイルス感染症の患者が増加するほど通常の診療が圧迫されることを説明した。

### (3) 新型コロナウイルス感染症を甘く見ないためのお願い

同ウイルス感染症について、①国民が季節性インフルエンザの流行が激減するような感染防止対策をしていたにもかかわらず、現在のような状況にある②感染力や急激な重症化、致死率等の面で風邪や季節性インフルエンザとは明確に違うことを説明。「同ウイルス感染症を単なる風邪の一種だと甘く見てはいけない」とした。

### (4) 直近の新型コロナウイルス感染症の医療提供体制

日本医師会が年末に地域の状況把握のための緊急調査を行った結果、年末年始も都道府県行政、保健所、医師会が一体となって体制整備の対応や、宿泊療養施設に医師会員を派遣するなどの取り組みが続けられたことを報告。

### (5) 通常診療の受診控えの懸念

受診控えについて、同ウイルス感染症が発生して約1年が経過し、生活習慣病の重篤化が顕在化するタイミングであることを踏まえ、「日本医師会がかりつけ医糖尿病ケア（J・D・D・M）の分析結果を示しながら、緊急事態宣言で通常診療の受診控えが加速しないようにする必要を強調。国民に対して、健康に少しでも不安を感じたら、既に全国で2万件以上発行されている「みんなが安心マーク」が掲示されている医療機関に相談、受診することを呼び掛けた。

### (6) 学校の休校

学校の休校に関して、児童・生徒間の感染拡大は限定的であるとのデータが示されていることを踏まえ、「子どもの孤立を防ぎ、保護者の負担を軽減する意味でも、緊急事態宣言下において一斉休校とする必要はない」と指摘。昨年3月の臨時休校の際には保育園、幼稚園が休みとなったことで、医療従事者が

### (7) ワクチン接種

製薬会社によって流通方法や保存方法が異なり、極めて大規模な予防接種の実施体制が必要となるため、会内に中川会長、今村聡・松原謙一・

### 森七菜さん主演 「なな色健康家族」動画

ぜひご活用下さい!!



数々の映画やドラマでも活躍中の森七菜さんが主演を務める動画「なな色健康家族」(4編)のデータの使用期限を、**2021年7月7日まで6カ月**延長することといたしました。

日本医師会ホームページのメンバーズルームにデータを掲載しておりますので、会員の先生方はぜひ、待合室などでご活用下さい。

問い合わせ先 日本医師会広報課  
☎ 03-3942-6483 (直) ✉ kouhou@po.med.or.jp

メンバーズルーム「国民向け動画『なな色健康家族』」  
<http://www.med.or.jp/japanese/members/info/nanairo.html>

人事課 03-3942-6493・総務課 03-3942-6481/03-3942-6477・施設課 03-3942-7027・経理課 03-3942-6486・広報課 03-3942-6483・情報システム課 03-3942-6135・企画情報室 03-3942-7005(0)  
医療保険課 03-3942-6490・介護保険課 03-3942-6491・産業経営支援課 03-3942-6519・年金福祉課 03-3942-6487・生涯教育課 03-3942-6139・編集企画室 03-3942-6140・医学図書館 03-3942-6482  
電子認証センター 03-3942-7005(0)  
国際課 03-3942-6488

医療機関（開設者、管理者）の皆様へ

# 新型コロナウイルス感染症対応 医療従事者支援制度

## 医療従事者支援制度とは

新型コロナウイルス感染症に対応する医療従事者は、自身が感染する、感染の媒介者になるかもしれない不安や恐怖の中、患者の治療に従事されています。

医療従事者支援制度は、医療現場の最前線で働く医療従事者が安心して働けるよう、そして医療提供体制をしっかりと維持して頂けるよう創設された制度です。

## 申し込み方法

制度の詳細のご確認、お申し込みについては、右のQRコードまたは下記URLより特設サイトにアクセス頂き、手続きをお願いいたします。

<https://jchqc.or.jp/w-comp/>

医療従事者支援制度  検索



## お問い合わせ先

東京海上日動火災保険株式会社 医療・福祉法人部法人第一課 コールセンター

☎ 0120-370-540 [平日10:00-17:00 (土日祝除く)]

✉ shien2020@tmnf.jp

メールでのお問い合わせの際は、お名前、ご連絡先、お問い合わせ内容を記載願います。

※加入申し込みが多数となっており、募集期日の3日前（土・日・祝日を除く）までにお申し込み手続きを頂くようお願いいたします。

# 第9回 「日本医師会 赤ひげ大賞」 受賞者を決定

日本医師会



日本医師会ではこのほど、第9回「日本医師会赤ひげ大賞」（主催：日本医師会、産経新聞社、特別協賛：太陽生命保険株式会社）の受賞者を決定し、城守国斗常任理事が1月6日の定例会記者会見で公表した。

本賞は、「地域の医療現場で長年にわたり、健康を中心に地域住民の生活を支えている医師にスポットを当て、その活動を顕彰すること」を目的として、平成24年に創設したものである。

受賞者の選考は昨年11月12日に開催した選考会で行い、下記の受賞者を決定した。

会場で受賞者決定までの経緯を説明した城守常任理事は「石川県医師会推薦の98歳の伊藤先生を始め、長年にわたり、困難な条件の下で住民の健康確保に親身に取り組んでこられた、すばらしい活動をされている方々は、かなりである」と述べ、その功績を称えた。

なお、表彰式・レセプションについては、新型コロナウイルス感染症の感染状況を勘案して開催を決定することとし、開催する場合には、昨年新型コロナウイルスの影響で開催できなかった第8回の受賞者と同様の形で行う予定となっている。

## 「赤ひげ大賞」受賞者（5名）

（順列は北から・敬称略。受賞者の年齢は2021年1月6日現在）

### ますだ てつぞう 升田 鉄三 医師



66歳 北海道  
礼文町国民健康保険船泊診療所 所長

礼文島唯一の医師として長きにわたり地域医療に貢献してきた。診療所では、人工透析器2台を備え、稚内市の市立病院の精神神経科と連携して、精神科のオンライン診療も行っている。MRIやCTも設置し、上部・下部内視鏡検査・超音波検査を充実することで、島内での検査・治療を可能にするだけでなく、島内申請者全員の主治医意見書の作成や特養への月2回の訪問診療を実施。毎月、医療・保健・福祉関係者と在宅医療患者の情報交換も行っている。

### いとう ひろし 伊藤 博 医師



98歳 石川県  
伊藤病院 名誉院長

日本陸軍医学校卒業後、金沢陸軍病院の教育隊長として従軍。昭和23年の福井地震の際には防疫体制確保のために尽力した。胃がんの診断治療の技術向上に努め、昭和29年より北陸初の胃カメラ臨床応用を開始するなど、多くの早期胃がん患者の治療に貢献。昭和39年に伊藤内科を開設後は、X線テレビ室、内視鏡室、臨床検査室を設置し、当時の先進的な取り組みを行った。「黄泉からのお迎えがあった時が、自分の現役が終わる時」として、今も現役で診療を続けている。

### ふじい としじ 藤井 敏司 医師



70歳 岩手県  
藤井小児科内科クリニック 院長

大槌町唯一の小児科開業医として、昭和58年から地域の子どもの健康管理に人生を捧げている。東日本大震災の際には甚大な被害を受け、自宅、診療所、分院、全てが津波に飲み込まれ、自衛隊の救助で高台の体育館に避難したが、そこでも避難者の対応に当たった。一時、体調を崩し入院加療するが、小児科医院の再開を強く希望する地元の声に応え、診療所を再開し、地元住民に寄り添い、地域の復興と医療の再生に現在も尽力している。

### かじお なおみ 梶尾 直美 医師



85歳 広島県  
沖野上クリニック 院長

福山市において昭和41年から54年間の献身的な診療を通じ、地域住民から「かかりつけ医」として絶大な信頼を寄せられている。小児科医として将来を担う子ども達の心身共に健やかな育成を目指して、疾病の早期発見・早期治療と予防、保護者に対する健康指導など、母子保健活動にも積極的に取り組んでいる。平成12年に福山市医師会が、二次救急病院の負担軽減を図るために福山夜間小児診療所を開設後は、多忙の中、協力医として20年間出務した。

### すずき なおみ 鈴木 直文 医師



67歳 茨城県  
慈泉堂病院 理事長

所縁のない大子町に開業し、24時間体制で診療希望の患者を昼夜問わず受け入れ、訪問診療も実施、往診にも対応している。病院の敷地内にある自宅では、いつ呼び出されても常に対応できるよう備えており、患者に対する熱意は並々ならぬものがある。令和元年10月の台風19号は町に甚大な被害をもたらし、病院は床上浸水で1階部分が機能停止。他の病院も同様で、町内の医療機関が麻痺した際にも床の汚泥除去から復旧に努め、3日後には外来患者、救急患者の受け入れを始めた。

## 「赤ひげ功労賞」受賞者（13名）

（順列は北から・敬称略）

- |                     |                      |                          |
|---------------------|----------------------|--------------------------|
| おおたけ<br>大竹 進 (青森県)  | おがわ<br>小川 郁男 (埼玉県)   | ほしの<br>星野 恭子 (東京都)       |
| ひろせ<br>廣瀬 憲一 (神奈川県) | げっか<br>月花 亮 (静岡県)    | いしい<br>石居 志郎 (京都府)       |
| みやした<br>宮下 弘道 (大阪府) | いしげき<br>石関 光朗 (和歌山県) | やまと<br>大和 秀夫 (徳島県)       |
| かめい<br>亀井 敏光 (愛媛県)  | きしもと<br>岸本 範男 (高知県)  | たけのうちひろまさ<br>竹ノ内弘昌 (福岡県) |
| な<br>名嘉 勝男 (沖縄県)    |                      |                          |

# 案内



## 令和2年度

### 死亡時画像診断(AI)研修会

—E-learning形式—

◆主催：日本医師会、Ai療放射線技師会  
学会、日本診療放射線技師会  
◆共催：日本医学放射線学会、日本救急医学会  
◆後援：日本医学会、日本病理学会、日本法医学会

◆研修方法：E-learning形式  
受講者専用サイトより、講義動画を視聴いただき、確認テストを実施します。

◆実施日程：申請開始：2月3日(水)先着順、定員に達し次第締切  
視聴期間：2月19日(金)から3月12日(金)まで  
※カリキュラムを全て受講し、修了要件を満たしたと判定された方に修了証を発行します。

◆参加対象：医師もしくは診療放射線技師  
◆定員：医師100名、診療放射線技師100名  
◆参加費：無料

◆申込方法：医師の方は、日本医師会ホームページにアクセスし、所定の要領に従ってお申し込み下さい。

◆お問い合わせ先：日本医師会  
〒100-8385 東京都千代田区千代田1-1-1  
03-3942-6484

◆お問い合わせ先：日本医師会  
〒100-8385 東京都千代田区千代田1-1-1  
03-3942-6484

◆お問い合わせ先：日本医師会  
〒100-8385 東京都千代田区千代田1-1-1  
03-3942-6484

## 「OTSUKAまんがヘルシー文庫」活動30年を機にウェブサイトを刷新

「OTSUKAまんがヘルシー文庫」の活動が、1989年の創刊（大塚製薬が創刊）から30年が経過したことを受けて、ウェブサイトを刷新した。

「OTSUKAまんがヘルシー文庫」は、日本医師会、日本学校保健会の監修の下、日本小児科医会の推薦を受け、毎年新刊を発行し、全国の公・私立小学校などに寄贈している健康支援活動。体のつくりや健康・栄養に関するテーマとし、医師や教諭などの専門家が構成を担当。ちばてつや氏、赤塚不二夫氏（現在は株式会社フジオ・プロダクション）を始め著名な漫画家を楽しい漫画に描きおろしている。

ウェブサイトには、これまで発刊した30巻の漫画から約100編を電子化して掲載。子どもが検索しやすいようにした他、小学校学習指導要領対照表を掲載するなど授業でも扱いやすいよう工夫されているので、ぜひ、ご活用願いたい。

「OTSUKAまんがヘルシー文庫」  
https://www.otsuka.com/jp/comiclibrary/

## 令和2年度母子保健講習会

◆主催：日本医師会  
日時：2月28日(日) 午後1時～3時20分  
◆会場：オンライン開催 (Zoom)

◆参加者：日本医師会員  
◆参加費：無料

◆申込方法：都道府県医師会を通じて申し込み願いたい。招待メールは申込者宛に直接お送りします。

◆申込締切：2月12日

◆主なプログラム：  
・講演：「成育基本法 基本的方針について」(仮)  
・講演：「成育基本法 子どもの家庭局母子保健課長」  
・講演：「成育基本法に 関連する産科的課題」(仮)  
・講演：「木下勝之日本産婦人科医会会長」  
・講演：「成育基本法に 関連する小児科的課題」  
・講演：「神川晃日本小児科医会会長/日本医師会母子保健検討委員会委員」  
・講演：「新型コロナウイルス感染症に関連する産科的課題」(仮)  
・講演：「石渡勇日本産婦人科医会副会長/日本医師会母子保健検討委員会委員」  
・講演：「新型コロナウイルス感染症に関連する小児科的課題」(仮)  
・講演：「森内浩幸長崎大学大学院教授」

◆お問い合わせ先：日本医師会健康医療第二課  
〒100-8385 東京都千代田区千代田1-1-1  
03-3942-8181

◆お問い合わせ先：日本医師会健康医療第二課  
〒100-8385 東京都千代田区千代田1-1-1  
03-3942-8181

◆お問い合わせ先：日本医師会健康医療第二課  
〒100-8385 東京都千代田区千代田1-1-1  
03-3942-8181

◆お問い合わせ先：日本医師会健康医療第二課  
〒100-8385 東京都千代田区千代田1-1-1  
03-3942-8181

# 南から北から

山形県  
山形市医師会より  
第615号より

子どもの頃の楽しくない思い出  
五十嵐勝朗



扁平足  
へんぺいそく

小学5年生の時、クラス生徒の全員が体操場に集められて、腰を下ろして裸足で足底を広げさせられました。担任の先生が10センチくらいの幅の板を持って足底を見て、私の所に来た時「扁平足」と言いました。みんなの前で扁平足と体の不具合を言われて、私はこれまでも体のどこも悪くはなく普通に過ごしていたので、驚きのあまり気持ちが悪くなりました。

毎日2キロメートルくらいの通学路を歩いても疲れないうし、他の人に比べて特に歩くのに劣るところはありませんでした。数カ月くらい経った時、学校帰りに友達の家へ遊びに行こうとしたら途中にお寺がありました。お寺の門前に、お釈迦様の足跡が刻んである仏足石がありました。よく見ると土踏まずのくぼみはなく、のっぺらとしていわゆる扁平足でした。この時、私の足底はお釈迦様と同じであることを発見し、急にうれしくなりました。これで劣等感を持たなくても良いと思うと天にも昇る気持ちでした。

兄に辞書の引き方を習い、仏足石について調べたら、お釈迦様の足の裏の形を刻みつけた石のことと、お釈迦様の足跡を信仰の対象としたものであり、指の渦巻き紋は太陽を象徴し、真ん中の千幅輪紋は仏法が太陽のように満遍なく行き渡り、衆生の苦しみを救うことを意味するとありました。

大人になっても扁平足はそのままでしたので、体についての劣等感は残っていました。医学部に入り、整形外科の教科書の疾患別の項目で、最初に開いたのは扁平足の項目でした。目を皿のようにして読みましたが、原因・治療についてはたった数行しか記載はなく、結論として放置して良いということでした。

そうすると子どもの頃から悩み続け、劣等感を植え付けた扁平足の有無の検査とは何だったのだろうか。これも後で知ったことですが、アロワナは縄張り意識が強く、複数匹を同じ水槽で飼育する場合は、縄張りが作れないくらいのアロワナを必要にするため、資金が必要になるため、おのずと単独飼育にするしかないのですが、これが水槽地獄への第一歩でした。水槽が一つ増え、また一つ増え、気付けば60センチ水槽が4個くらいになっていました。

鳥取県  
鳥取西部医師会報  
No.203より

熱帯魚との生活  
大野 光洋

もともと子どもの頃は犬が好きで、小学生の時は犬を飼っていました。が、好きな割にお世話は苦手で、散歩も不定期、あまり良い飼い主ではなかったと反省しています。その反省を生かし、大学生の時には弟の飼っていたチワワと一緒に可愛がっていました。何となく、何となく、大アレルギーを発症し、以後犬には近寄れない体になってしまいました。

グッピーと水槽を買ったのは、1週間後には買ってもらったグッピーが全滅。これでは父に申し訳ないと、再度自分でもグッピーを買ってみました。が、今度も1〜2週間で全滅。「何ですぐに死んじゃうんだろう」と、そこから魚の勉強が始まり、水質管理が非常に大事であること、水質維持

飼ってみました。シルバニアアロワナは体が柔らかいので、しばらくは60センチ水槽でも問題なく飼育できました。しばらくして、アロワナにはシルバニアアロワナ以外に、アジアアロワナという種類がいることを知り、た。アジアアロワナは、シルバニアアロワナほどは大きくありませんが、50〜70センチになる魚で、黄金や真紅に染まる、とてもありがたい感じの魚です。

当然、アジアアロワナにもだんだん興味が出てきて、ある日またやってしまおうと、今度はボット。

扁平足とはどういう病気なのか、また扁平足の人は何が都合なのかが分からないので、家に帰り父に言ったら、父は「足底の土踏まずがへこんでいないので、長歩きはできないから兵隊検査では不合格と言われた人がいたらしい」と言っていました。

それ以降は動物を飼育するチャンスはなかったのですが、長女が幼稚園の時に、僕の父が長女に足底が刻んである仏足石

でも、やはり気軽に手を出してはいけないう魚でした。まさか水槽内でも1メートルに成長する魚だとは。

ただ飼ってみて、グッピーの飼育とは違った楽しさがあることに気が付きました。グッピーは水槽内にたくさん泳いでいたので、魚を集団としか見ていませんでしたが、1匹を可愛がるという感覚はとても新鮮で、犬を可愛がる感覚に似ており、そこからどんどん大型魚の魅力にはまっていきま

まず60センチ水槽で飼って、次に90センチ水槽、120センチ水槽となっていくと、アロワナを終生飼育しようと思ったら、金龍であれば最低でも横120センチ、奥行60センチ、高さ45センチの水槽が必要になりますが、紅龍の場合は横150センチは必要になります。

翌日学校に行ったら、友達から「扁平足」と軽蔑したような顔で言われ、自信が無くなりました。

それは降は動物を飼育するチャンスはなかったのですが、長女が幼稚園の時に、僕の父が長女に

た。それ以降は動物を飼育するチャンスはなかったのですが、長女が幼稚園の時に、僕の父が長女に

また、去年のクリニックリフォームの時に、水槽のあるクリニックに当たったので、試しに水槽を設置してみたところ、患者さんの反応も良かったため、更に調子に乗って、現在は自宅、クリニック合わせて20本以上の水槽を管理しています。

ただ、うわさでは寿命が100年とか150年とか……。

その日から扁平足とはどういう病気なのか、どうすれば治るのかと真剣

た。それ以降は動物を飼育するチャンスはなかったのですが、長女が幼稚園の時に、僕の父が長女に

た。それ以降は動物を飼育するチャンスはなかったのですが、長女が幼稚園の時に、僕の父が長女に

た。それ以降は動物を飼育するチャンスはなかったのですが、長女が幼稚園の時に、僕の父が長女に

た。それ以降は動物を飼育するチャンスはなかったのですが、長女が幼稚園の時に、僕の父が長女に

た。それ以降は動物を飼育するチャンスはなかったのですが、長女が幼稚園の時に、僕の父が長女に

た。それ以降は動物を飼育するチャンスはなかったのですが、長女が幼稚園の時に、僕の父が長女に

た。それ以降は動物を飼育するチャンスはなかったのですが、長女が幼稚園の時に、僕の父が長女に

た。それ以降は動物を飼育するチャンスはなかったのですが、長女が幼稚園の時に、僕の父が長女に

た。それ以降は動物を飼育するチャンスはなかったのですが、長女が幼稚園の時に、僕の父が長女に

(一部省略)

# 勤務医のページ

## 新型コロナウイルス感染症 入院症例レジストリCOVIREGI-JPの 意義と今後

国立国際医療研究センター病院 国際感染症センター長 大曲貴夫

2019年12月に、中国武漢市において肺炎の集団発生がみられ、気道上皮細胞より新規のコロナウイルス(2019-nCoV、SARS-CoV-2)が分離された。それ以降、このウイルスによる感染症である新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19)が全世界で猛威を振るっている。

COVID-19については、臨床経過・臨床像に関する検討はまだまだ十分になされていない。そしてその重症化率、致死

率などの状況は時間とともに変化していく。行われる治療も短期間で変化しており、これが患者の予後に与える影響も無視できない。このような情報を可能な限りリアルタイムに把握し、その結果を公衆衛生の現場、医療現場に直接に還元していくことで、COVID-19への対応に資することができる。

これらのことから、本邦のCOVID-19の入院症例に関する臨床経過・臨床像を明らかにするための仕組みとして立ち上げられたのが、COVID-19 Registry Japan(以下、COVIREGI-JP)である(https://covid-registry.ncgm.go.jp/)。本研究では、COVID-19において、治療として薬剤投与された場合を含め、登録症例について既存資料としての診療情報を収集している。本研究で収集されたレジストリデータは、今後の治療薬開発、臨床試験や臨床研究の実施などの方針や研究デザイン、エンドポイントなどを判断する際に役立つ資料となり得る。更に、将来的に適応追加等を検討する際に本研究での情報を利用して

きる可能性がある。このレジストリも既に2020年11月30日時点で1万7197例ものデータが集積し、その解析結果も出つつある。今回はそのうち二つの結果を紹介する。

本邦の新型コロナウイルス感染症のレジストリであるCOVIREGI-JPに参加している26338例を対象として疫学的特徴を検討した。

入院患者の年齢中央値は56歳(四分位範囲(IQR):40~71歳)であった。症例の半数以上が男性であり、(58.9%、1542/2619)症例の60%近くがCOVID-19の確定例または疑い例と密接な接触をしていた。

入院までの症状の持続期間の中央値は7日(IQR:4~10日)であった。併存疾患は高血圧(15%、3966/26338)と合併症を伴わない糖尿病(14.2%、374/26338)が最も多かった。

入院時の重症患者の割合は第2波では第1波に比べて短かった(中央値、4日対7日)。第2波患者は、年齢が若く(年齢中央値、37歳対56歳)、他院からの転院が少なく(3.8%対15.0%)、心血管疾患(1.9%対5.9%)、脳血管疾患(1.8%対6.1%)等の併存疾患が少ない傾向にあった。死亡率(1.2%対7.3%)も第2波では低かった。

第2波のデータは、人口統計学的に若く、併存疾患が少なく、入院時の重症患者の割合が低く、死亡率が低下していることを示している。しかし、年齢と入院時の重症度を

法)を受けた者(8.5%、225/26338)であった。全体では66.9%(1762/2634例)の患者が自宅に退院したが、7.5%(197/2634例)が死亡した。他国の既存の入院患者を対象とした研究と比較すると、併存疾患が少なく、死亡率が低い傾向にあることが示された。

また第2の研究では、いわゆる日本国内での第1/第2波の比較研究を行った。対象は5194例(第1波3833例、第2波1361例)であった。入院時の重症患者の割合は第2波では第1波に比べて短かった(中央値、4日対7日)。第2波患者は、年齢が若く(年齢中央値、37歳対56歳)、他院からの転院が少なく(3.8%対15.0%)、心血管疾患(1.9%対5.9%)、脳血管疾患(1.8%対6.1%)等の併存疾患が少ない傾向にあった。死亡率(1.2%対7.3%)も第2波では低かった。

第2波のデータは、人口統計学的に若く、併存疾患が少なく、入院時の重症患者の割合が低く、死亡率が低下していることを示している。しかし、年齢と入院時の重症度を

### 勤務医のひろば

#### 地域医療を守るために

京都府医師会勤務医部会幹事長／綾部市立病院名誉院長 鴻巣 寛



的な医療を担う地域中核病院である。京都府は、人口当たりの医師数が多いが、地域格差が大きく、北部においては医師確保が喫緊の課題となっている。京都府立医科大学の関連病院であり、全ての診療科で常勤医による診療体制が望ましいが、人手不足のため非常勤医の派遣を要請している診療科が多い。

また、宿日直業務も、ほぼ半数を派遣医師に頼らざるを得ないのが現状である。1997年に管理型臨床研修指定病院に認定された。これは、発症から入院までの期間が短かったこと

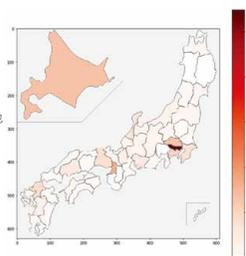
で、患者の背景や併存疾患の違い、治療法の進歩などが原因と考えられる。

### COVID-19 レジストリの登録状況 (2020年11月30日時点)

- 参加施設数: 830 施設
- 全国登録症例数: 17,197 例\*\* \*\*入力途中の症例を含む

調査項目 (Day 1, Day 4, Day 8, Day 15, Day 22, Day 29)

- 年齢、性別、基礎疾患
  - 入院時の徴候・症状・検査
  - 呼吸数、酸素飽和度、体温など
- 抗SARS-CoV-2薬投与状況
  - 投与なし・ファビピラビル・レムデシビル・シクレソニド 他
- 入院経過と転帰
  - 薬投与・人工呼吸器管理・ECMO管理
  - 軽快・後遺症あり・死亡
- 有害事象
  - 程度・転帰



### COVID-19 に関するレジストリ研究の概要

目的	本邦におけるCOVID-19患者の臨床像及び疫学的動向を明らかにする
対象	COVID-19と診断され、医療機関において入院管理されている症例
期間	2020年1月～ 現在
解析・検討内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>COVID-19の臨床像、経過、予後</li> <li>重症化危険因子の探索</li> <li>薬剤投与症例の経過と安全性</li> </ul>
寄与	将来の予防法・治療法の開発などの際に活用可能な基礎データとなる。

厚生労働省科学研究費「COVID-19に関するレジストリ研究」：代表者 大曲貴夫

COVIREGI-JP (https://covid-registry.ncgm.go.jp)

COVID-19 レジストリ研究 Webサイト 2020年4月開設

研究について、一般・参加施設へ情報提供(研究概要、研究体制、情報公開文書、研究成果、Q&Aなど)

地域医療を守るために、大学と地域関連施設との良好な人事交流、そしてさまざまな学術交流を通じて、地域医療に関心を持ち、活躍してもらえ、若手医師が少しでも多く育成されることを望んでいる。

今、地域医療構想、医師の地域・診療科偏在対策、働き方改革、そして新専門医制度など、新たな医療体制の実現に向けた議論が活発化している。